

## 10. 総合人間学部、人間・環境学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 28 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 29 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 文学研究科ならびに人文科学研究所とともに、博士の学位を有する者またはそれと同等以上の卓越した研究能力を有するものを「京都大学人文学連携研究者」として採用する人材育成および研究支援体制を整備した。人文学連携研究者には、研究を遂行するために必要な施設、図書、設備の利用を許可し、研究費の配分などに便宜をはかっている。本体制整備は、京都大学における人文学（社会学・心理学も含む）研究の一層の深化・国際化を推進し、さらに先端学術領域との連携も進展させ、世界に向けて発信する「人文知の未来形発信」に寄与し得る基盤形成を図ることを目的にしている。平成 30 年度に 6 名、令和元年度に 4 名を採用している。
- 令和元年度に、人間・環境学研究科教員を主要メンバーとする研究課題「マレーシア国サラワク州の国立公園における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発」が「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」に採択され、マレーシア国サラワク州との密接な共同研究が開始された。また、その他の教員も SATREPS を通じて国際共同研究を推進している（例えば、「チリにおける持続可能な沿岸漁業及び養殖に資する赤潮早期予測システムの構築と運用」）。
- 人間と環境の関わり方に関する論文、資料、総説、展望などを対象とした学術雑誌『人間・環境学』を年に 1 回発行し、京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）に公開している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

### 〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、16件、4件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「西洋哲学と日本哲学の比較思想的研究」は、学術的に卓越している研究業績である。

### 〔特色ある点〕

- 40歳未満の若手教員（いずれも助教）が著名な学術賞を受賞していることである。